

4番（**森田卓司**議員） 皆さん、こんにちは。新風会**森田卓司**でございます。本日、個人質問2日目となっております。

建部地域を含め岡山市内、岡山県はずっと暖冬傾向が続いておりましたが、ことしの冬は異常な寒さでございました。建部地域ではマイナス9.5度という報道もございましたが、その割には雪は降らなくて、ゴルフ場とかのクローズも少なかったと聞いております。建部地域では毎年、建部町体育協会がスキーバスを出しておりますが、その体育協会、ここ数年はどこのスキー場に雪があるかということを探すのに必死で、スキー場の雪を心配していることが非常に多かったんですが、ことしはスキー場の雪を心配することもなくスキーバスが出せました。

さて、私は市議会議員といたしまして、合併をしてここに登壇させていただき、早いものでもう4年がたちました。当時、建部町、瀬戸町の合併を協議する中で、花岡議長が岡山市議会を代表されまして法定協議会に来られておりました。そして、私がこの市議会に来させていただいて、当時の花岡議長よりいただいた言葉は、4年間は早いぞというお言葉でございました。本当に4年間はあっという間に過ぎてしまいました。今、本当に早いものだというところを実感しているところでございます。

また、建部地域、瀬戸地域、そして御津地域、灘崎地域もそうだと思いますが、小さなまちであったものが中核市になり、そして政令市になり、そういう本当に大事な時期に合併を議決し、また政令市を議決した議員として、非常に重要なこの4年間に市議会議員としての活動をさせていただいたことは感無量というか、非常にうれしく思っております。と言うと、これで議員をやめてしまうのかというようなことになってしまいますが、まだまだやる気満々でございまして、頑張っってやっていこうと思っております。

そこで通告に従いまして個人質問をさせていただきます。

通告の中で、4番目にあります緊急雇用対策については取り下げさせていただきますので、議長に取り計らいをよろしく願いいたします。

まず、新市建設計画、新市基本計画の進捗状況についてお尋ねをいたします。

1、御津地域農業集落排水施設整備事業についてお尋ねをいたします。

11月定例会市議会で要望書が提出されていた、御津上伊田・下伊田・矢原地域の方々に十分な説明を行うべきではないかとの私の質問に対して、早期に具体的な整備計画の検討を行う予定であり、地元の方々へ説明し、協議もしながら取り組んでまいりたいと考えておりますとの下水道局長の答弁でありました。その後、各町内会長さんには、現在の状況の説明があったとお聞きをしていますが、対象地域の住民の方々にも現在の状況、そして今後の整備計画を説明することが必要であると考えますが、今後の予定をお聞かせください。

次に、2、健康みつ21公園（仮称）整備事業についてお尋ねいたします。

平成23年度予算に健康みつ21公園（仮称）整備事業の設計予算が計上されていますが、今後の具体的な整備計画をお示しください。また、地元の方々には十分な説明がされているのかもお聞かせください。

続きまして、3、総合保健福祉施設建設事業（金川病院併設）についてお伺いをいたします。

独立行政法人国立病院機構岡山医療センターに委託をすることが決定した新金川病院ですが、診療科目の追加も地元の要望も含めて考えるべきではないかと思いますが、御所見をお聞かせください。また、金川病院の職員の方々の処遇についてはどのようなものかお聞かせください。

次に、建部地域の新市基本計画についてお尋ねいたします。

4、八幡温泉郷の整備計画についてお尋ねいたします。

ここで何回も、私も質問をさせていただきましたが、合併特例区協議会で、サンタケベ、温泉会館の一体的な整備計画が了承されたところであります。今後のスケジュールについてお示しください。

次に、5、福渡高等学校跡地の活用についてお尋ねいたします。

この活用策については、何度も本会議で質問をしてきたところでございます。岡山市過疎地域自立促進計画の中にも、八幡温泉郷の整備と同様に、福渡高等学校の跡地活用については早急に解決すべきものであると示されています。私も単なる質問だけではなく、いろいろな形で提案、努力をしてみましたが、検討するではなかなか進まんよつと言われるんですが、検討するではなく、しっかりと取り組むとの積極的な答弁でありました。昨年6月に、この事業に対する質問をして、かなりの月日が経過をしています。

そこでお尋ねいたします。

(1) その後の県との協議等についてお聞かせください。

(2) 一部地域の方より、ファジアーノの練習場を誘致したらとの意見もお聞きすることがあります。敷地の面積を含め可能でしょうか。

余談になりますが、私も十数年前に、サッカーの審判員の試験を受けまして資格は取ったんですが、審判をすることなく1年間が過ぎて流れてしまいました。今は資格を持っておりません。

次に、御津・建部地域の生活バス、コミュニティバスの運行の充実についてお伺いいたします。

建部地域におけるコミュニティバスにつきましては、建部町生活バス及び旭川さくらバスが、合併時から特例区事業として現在も運行をされています。建部町生活バスは3路線、旭川さくらバスは1路線を運行しております。建部地域の市民の方々の交通手段の確保のためにも、今後も継続的な運行が必要と考えます。岡山市過疎地域自立促進計画にも、高齢化が進む中で、自分で移動手段を持たない高齢者、学生等にとって、バスは生活交通機関として今後ますます重要な役割を果たすことになる。そのため、コミュニティバスの運行等生活交通の実施に当たっては、市、交通関係者が連携をして少しでも利用しやすい環境を整え、地域住民の生活の足の確保に努めていくと記されており、岡山市としても生活

バスの重要性を認識されているところでございます。

御津地域におけるコミュニティバスの取り扱いについては、平成 16 年 7 月 13 日に開催された岡山県南政令市構想（岡山市・御津町・灘崎町）合併協議会において、特色ある住民サービスとして存続させることが決まり、合併特例区終了後も市民の日常生活に欠くことのできない生活交通の維持、確保を図るため運行されているところであります。公共交通空白地域の高齢者など交通弱者の移動手段確保のため、9 路線を運行しておりますが、新金川病院が平成 24 年 4 月に装いを新たに開院される運びとなっております。市民の安全・安心を支える役割を引き続き果たしていくため、このたび運営を独立行政法人国立病院機構岡山医療センターに委託をすることができ、私としても大変喜んでおるところであり、今後地域医療に貢献して下さることを期待しているところであります。また、地域医療としては、福渡病院の充実も著しいものがあると言わなくてはなりません。特に週 3 回の人工透析の治療は、予約患者の方でいっぱいになっているともお聞きをしているところでございます。

そこでお尋ねをいたします。

1、地域住民の方々が気軽に病院を利用することができるために、新金川病院前に停留所を新設すべきと考えますが、御所見をお尋ねいたします。また、御津地域の方が福渡病院を利用することもできるような運行形態も考える必要があると思うが、いかがでしょうか。

2、新金川病院から国立病院機構岡山医療センターへ延伸をして、円滑に移動できるように充実にすることが必要であると考えますが、御所見をお聞かせください。

3、御津・建部地域を含む岡山市北部、岡山県中北部の住民の方々が病院を受診、また買い物に行くなどの利便性を確保する観点から、JR 津山線福渡駅から国立病院機構岡山医療センターを結ぶ生活バス路線の延伸をすべきと考えますが、御所見をお聞かせください。

4、近隣の町とも連携、協議も必要であります。岡山御津高等学校へ通学をしている吉備中央町の生徒の足の確保、さくらバスの運行形態の協議もする必要があると考えますが、いかがでしょうか。

次に、中山間地域の今後の対策についてという項 1、平成 20 年度に岡山市が計画主体となって、岡山市鳥獣被害防止計画が示されています。平成 23 年度の被害の軽減目標値が示されていますが、現段階で達成可能かどうか見通しをお示しください。

2、平成 21 年のイノシシ被害対策についての私の質問で、電気さくとかトタンさく等、要望があれば緊急的に設置できるようにするべきではないかとの質問に対して、平成 21 年度から電気さく等の整備計画は、対策協議会で国の事業計画であり、事業予算を上回る要望にも対応できるとの答弁でありました。平成 21 年度以降、国の事業計画を使って何件の事業が行われたか、お示しください。

3、農地では耕作放棄地の増加が大きな問題となっております。広い岡山市の 4 分の 1

の面積を持つ御津・建部地域であります。中山間地域では、木材価格の低迷等で手入れができていない森林が大半であると認識をしております。森林の持つ本来の国土保全、水源涵養等のためにも、森林の整備が必要であると考えます。

そこでお尋ねいたします。

(1) 健全な森林づくりのために、どのような対策をお考えでしょうか。御所見をお聞かせください。

(2) 森林資源の活用のためには、林道の整備も重要な課題であると考えますが、整備計画があればお示しください。

最後の項、道路網の整備についてお尋ねいたします。

国道の一部また県道の管理が政令市に移行して岡山市に移譲されたことは、担当局また私たち市議会議員も、市民の方々から多くの期待を持たれています。

政令市移行後1年目は、県との協議も調べていないこともあったのか、スムーズな事業の推進ができていない状況であったと感じることも多々ありました。市民の皆様方からの苦情も多く聞くこともありました。政令市2年目の本年は、例えば用地買収等では、地権者、関係者の方々の理解と協力があったことだとは認識をしていますが、住民の方々に最も近い岡山市の職員として粘り強く交渉を進めることにより、難航していた用地買収を終えた地域もあります。

現在、県道に関しては、県が設計をした県道の整備が主流になっていると認識をしています。また、岡山市周辺では、県道平岡・小鎌線のように1本の県道でも市境で県管理と岡山市管理に分かれる道路が多くあります。

そこでお尋ねいたします。

1, 岡山県が道づくりの基準として定めている「おかやまスタンダード」について、岡山市はどのような御所見をお持ちか、お聞かせください。

2, 市境で1路線が県管理、市管理に分かれている道路の整備について、県と調整、連携が必要であると考えますが、御所見をお聞かせください。

3, 県道建部・大井線のように、岡山市内が起点、終点となっている県道整備についてですが、建部・大井線では、建部地域、御津地域の連結箇所のみ拡幅工事ができていません。このような県道が岡山市北部地域だけでも数路線あります。道路はその路線が全線計画どおり開通してこそ、その目的を達成することになり、地域間交流が図られると思います。

そこでお尋ねいたします。

このような県道の今後の整備について御所見をお聞かせください。

これで1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎片山伸二市民局長 福渡高等学校跡地の活用についての項のうち、ファジアーノ岡山の練習場誘致についてのお尋ねにお答えいたします。

ファジアーノ岡山の練習場につきましては、芝の維持管理等から考えて、天然芝2面、人工芝1面の整備が必要と考えており、拠点施設とするため、これにクラブハウスや駐車場等を含めて1カ所に集約して整備する方向で検討いたしております。そのためには、4ヘクタール程度の面積の土地が必要と想定しておりまして、福渡高等学校跡地の活用につきましては面積的に見て難しいものと考えております。

以上でございます。

◎岸堅士保健福祉局長 新金川病院の診療科目についてお答えします。

診療科目については、現在指定管理者となる岡山医療センターの同席を得て、御津地域の新市建設計画事業を見守る会、御津地域連合町内会への概要説明を行っており、その中で、内科、外科で運営することをお伝えしているところです。また、その他の診療科目については、今後の診療状況や地域ニーズを踏まえながら対応を検討することとしております。

以上です。

◎甲斐充経済局長 八幡温泉郷の整備計画の今後のスケジュールについてのお尋ねでございます。

施設整備に向けては、まず施設の主な機能及び新築、増築のいずれで整備するかを整理した上で基本計画を策定し、基本設計、実施設計、工事着工、完成・リニューアルオープンへという手順を考えております。

新市基本計画の期間内のできるだけ早い時期に再整備が行えるよう精力的に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、岡山市鳥獣被害防止計画の目標達成についてと電気さく等の平成21年度以降で国の事業計画の利用件数についてのお尋ねです。

岡山市鳥獣被害防止計画は、平成20年度に生産者団体や猟友会等の関係者の意見を踏まえて策定し、これまでイノシシ等の侵入防止さくの整備や捕獲活動支援等を実施しております。鳥獣被害は年によって変動があるため予測は困難ではありますが、目標達成に向けてしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

また、平成21年度以降に国の事業を活用して整備を行った地区は2件であり、今後とも要望に対しては十分にこたえられると考えております。

次に、健全な森林づくりのための対策についてと林道の整備計画について一括してお答えいたします。

本市においては、林業振興のための間伐促進対策事業補助金や森林の有する多面的な機能発揮を図るための森林整備地域活動支援交付金事業による森林の整備に努めております。

また、林道の新たな整備につきましては、事業効果や優先順位などを考慮し、県ともよく協議を行った上で考えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎白神利行都市整備局長 道路網の整備について順次御答弁申し上げます。

まず、岡山県が道づくりの基準として定めている「おかやまスタンダード」についてのお尋ねでございます。

岡山県では地域の状況に応じた道路整備を進めるため、全国一律の基準にこだわらない岡山県独自の道づくり基準として、「おかやまスタンダード」を策定しており、その中で交通量の比較的少ない中山間地域等における県道を効率的に整備するため、1.5車線の道路の整備方針を定めております。1.5車線の道路とは、交通量に応じ2車線改良区間と1車線改良区間を適切に組み合わせながら道路整備を行うもので、岡山市においても交通量の比較的少ない中山間地域等で県道の整備を行う場合には、「おかやまスタンダード」を参考に1.5車線の整備を行うなど事業効果の早期発現を目指し、迅速で効果的な道路整備に努めてまいりたいと考えております。

次に、市境で1路線が県管理、市管理に分かれている道路の整備について、県との調整、連携が必要であると考えがとのお尋ねでございます。

岡山市と周辺市町を結ぶ国・県道の整備につきましては、車道の幅員や設計速度など道路規格の整合性を図るため、岡山県と事前に整備内容等について協議や調整を行い、県と市が連携して道路整備を進める必要があると考えております。このため、政令指定都市移行後、岡山県と岡山市の道路担当部局で県市連絡調整会議を定期的に行い、道路整備に関する情報交換や整備内容等の確認を行っており、例えば県道平岡・小鎌線など具体の路線の整備に当たっては、随時個別に協議、調整を行いながら、円滑な事業の推進に努めているところでございます。

次に、未整備区間があることで地域間交流等の道路整備の目的が達成できていない県道の今後の整備についてのお尋ねでございます。

岡山市内の県道の改良率は約63%であり、中山間地域などで未整備区間が多く残っている状況でございます。

議員御指摘のとおり、道路がその機能を十分発揮するためには、未整備区間の整備を進める必要がありますが、これらの整備には大きな事業費を要することから、選択と集中のもと順次整備に取り組んでまいりたいと考えております。

これらの未整備区間のうち、県道建部・大井線につきましては、建部地内の事業中区間が平成23年度中に完了する見込みとなったことから、引き続き建部地域から御津地域にかけての未整備区間について、事業化に向けて概略設計等を実施することとしております。

以上でございます。

◎筒井祐治都市整備局都市・交通・公園担当局長　　まず、御津・建部地域の新市建設・基本計画の進捗状況についての項、健康みつ21公園——仮称でございますが——整備事業についての御質問に対してお答えいたします。

健康みつ21公園(仮称)整備事業につきましては、豊かな自然を生かした健康づくりや、公園区域内の古墳群を保全するとともに見学もできる公園となるよう、地元の方々との協議、説明を重ねながら、現在、現地測量を行い計画を進めているところでございます。来年度は設計を行うこととしておりますが、遊歩道や広場、取りつけ道路など具体の施設計画について引き続き地元の方々とも十分に協議を行いながら、事業の進捗に鋭意取り組んでまいりたいと考えております。

次に、御津・建部地域の生活バス、コミュニティバスについてのお尋ねに一括して御答弁申し上げます。

御津・建部地域における生活交通サービスに関する検討に向けて、今月初めに交通行動に関する実態調査を実施したところでございます。今後、共産党を代表しての田畑議員の御質問にお答えしたとおり、これから両地域の地元組織の方々との議論していくこととしており、具体的改善方策につきましては、交通実態や地域の協力・協働体制を踏まえつつ検討していくこととなりますが、この際、議員御提案の運行経路やバス停の改善、周辺市町との協議等についても、例えば新金川病院前バス停の新設という建設的な御提案もいただきましたので、関係部局とも協議しつつ検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎新田佳久病院局長　　金川病院の職員の処遇についてのお尋ねでございます。

現在、金川病院に勤務している職員につきましては、病院局内はもとより、市長部局等への配置がえで対応するように考えております。なお、新金川病院での勤務を希望する職員につきましては、岡山医療センターの職員採用情報について提供したいと考えております。

以上でございます。

◎尾崎正明下水道局長　　新市建設計画、新市基本計画の項で、御津地域農業集落排水施設整備事業についてのお尋ねでございます。

御津地域におきましては、新市建設計画に位置づけられた農業集落排水事業のうち紙工地区の整備を平成20年度に完了し、現在は御津新庄地区に事業着手したところでございます。

御津上伊田・下伊田・矢原につきましては、昨年12月に各区長さんへ概略説明をしたところであり、今後計画や費用負担などにつきまして、地元の方々へ説明を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎大月秀樹企画局新市建設計画推進担当局長 新市建設計画，新市基本計画の進捗状況についての項，福渡高等学校跡地の活用，その後の県との協議等の状況について御答弁させていただきます。

福渡高校跡地の活用につきましては，合併前の建部町において，地域づくりに資する教育・福祉関連施設の誘致に向けて取り組まれてきた事業であり，合併時に取り交わした新市基本計画にも位置づけられた主要事業であります。

施設所有者である岡山県教育委員会との協議につきましては，県教委におけるこれまでの他市町村への跡地の処分方針とのバランス，そして跡地に現存します校舎等の取り扱いも含めた譲渡条件の調整に時間を要しておりました。しかしながら，市としてこの案件の重要性をお示ししながら協議を進めてきた結果，本年度末を目標に一定の整理をする方向で現在，県教委と協議を行っているところであります。今後，一定の合意が得られた段階で，合併前の教育・福祉関連施設の誘致という方向性を尊重しながら，地域との調和，地域への貢献という視点も重視した事業計画の策定に取り組むこととしております。

いずれにしましても，福渡高校の跡地は地域の貴重な財産と認識しておりまして，建部地域の活性化に資する活用に向けて，しっかりと取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上です。

[4番 **森田卓司**議員登壇]

◆4番（**森田卓司**議員） 私は今，建部町大田というところに住んでおります。この建部町大田というところはちょうど建部町の真ん中あたりです。そして，市長にも以前歩いていただいたことがあるんですが，ある若者が山の上のほうで農業を営んでおられます。この人は玉野市から来られた方だということでございます。その方が言っておられました。せっかくつくった農作物が一夜にして荒らされてしまって，ここに来て耕作放棄地を何とか少なくしようと本当に努力をしてくれているが，なかなかいかないんですよというお言葉をお聞きしました。玉野のほうから来られて建部地域の山の上で，少しでも耕作放棄地をなくそうというような努力をされている若者でございます。

今，鳥獣被害から守るためにトタンさくとか，市のほうもいろんな手を打っていただいているわけですが，3戸でないと電気さくができない，3戸以上の集団でないとできないとかというような縛りがございます。その1軒の農家から1軒の農家まで行くのに何キロメートルもかけなければ行けないような農地でございます。そのような農地を守るために，やはりこれは行政として何とか助けてあげたい。そのような若者を助けてあげて，しっかりと農地を守っていただくということも，非常に重要なことではないかと私は思っております。

そこでお尋ねいたします。

鳥獣被害防止に向けしっかり取り組んでいただきたいと思います。県や国の補助事業の活用だけではなく、岡山市独自のイノシシ対策等の充実を図る必要があると考えますが、いかがでしょうか。

そして次に、コミュニティバス、生活バスについて再質問をさせていただきます。

これもその地域の、山の上のほうの地域の方々の言葉でございます。森田さん、私**森田卓司**というんですが、地域の高齢者の方からは卓ちゃんと言うてくださる方も多いんですが。卓ちゃん、頼むで、このバスだけはのうさんようにしてくれよと、私らこれがなかったら何もできんのじゃというような言葉をよくというか、大勢の方からお聞きます。移動手段を持たないんです。また、高齢者の方が今は免許証を持っているけれど、もうその免許証を返上しなけりゃあいけない。現に建部地域でも、高齢者の方がアクセルとブレーキを踏み間違えて商店に飛び込んだという事故もございました。そういう事故を避けるために、もう免許証を返上せにゃあいけんのかなという時期にわしも差しかかっとなんじや。そうじゃけどなあ、この免許証を返したら病院にも行けんようになるし、大変不安に思うとなんじやというような意見を、本当に切実な思いで涙を流しながら、お聞きをいたします。ぜひともこの生活バス、コミュニティバス、運行形態は今の大きなバスが走るのがいいのか、どういう方がいいのか、私にはそれは検討の余地があると考えております。また、建部地域、御津地域の方、多くの方が病院を利用されます。福渡病院で済む方は今は、そこで済んでおります。でも、国立病院に行くには、治療に行くにも入院をされた方のお見舞いに行くにも、JRで岡山駅へ来て、そこからバスで行かなくてはなりません。非常な労力でございます。

そのようなことで今回、私は直通でバスを走らせることはできないかというような質問をさせていただきました。病院にも行けない、地域で買い物にも行けない、このような交通弱者の方々をぜひとも助けてあげてください。そして、これをするのが行政の役割ではないかと私は思っております。地域で私はいろんな話をさせていただいておりますが、行政がやることは行政がやる、このような生活バスとかこういうことは絶対に行政がやらなければならない問題だと思っております。また、地域と行政が協働してやっていくこと、このようなことも絶対に必要だと思っております。また、地域力でやっていかなければならないこと、行政を頼りにしないで地域でやっていくこと、このことも必要だとは思っております。そのことは建部地域の方も御津地域の方もよくわかっておられます。ですから、行政がやっていくこと、行政がやらなければならないこと、このことだけは絶対にしてやってください。お願いをしておきます。

そこで質問をさせていただきますが、本年1月末から2月初めにかけて、建部・御津・足守地域で交通実態調査が行われました。幅広い地域で、幅広い年代層に調査が行われたとお聞きをしております。建部・御津地域では、この実態調査を行うことで、現在運行されている生活バス、コミュニティバスの運行回数の減少、廃止を心配する声をお聞きすることがありますが、そのようなことを目的とした実態調査ではないということをご

っかりと答弁いただきたいと思っております。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。(拍手)

◎甲斐充経済局長　鳥獣被害に関して、国や県の補助事業の活用だけではなく、岡山市独自のイノシシ対策の充実を図る必要性があるのではないかという御指摘でございます。御答弁申し上げます。

全国的に鳥獣被害対策というものは課題となっております。国は平成23年度予算におきまして、鳥獣被害緊急総合対策として、今年度の約5倍の110億円余りの予算を計上されております。本市としましては、国の事業等を活用して電気さく等の侵入防止さくの整備を進めることはもちろんですが、有害獣の捕獲の取り組みについては国や県の事業だけでは十分な対応ができていないため、有害獣捕獲補助金を平成23年度予算において拡充を図ることといたしております。

今後も限られた予算の中で、国、県等の事業も活用しつつ、鳥獣被害の対策に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎筒井祐治都市整備局都市・交通・公園担当局長　生活交通の重要性につきましては、これまでも御答弁させていただいたとおり、その重要性について強く認識をさせていただいているところでございます。

今回の実態調査並びにその後の一連の地域の方々とのお話し合い、これにつきましては、その生活交通を地域と一緒にしながら持続的なものへと高めていく、つまり改善方を検討するためのものということで行っておりますので、決して廃止を目的として行っているものではないということをお答えいたします。

以上でございます。